



研究所便り

しまんと

発行：四万十町教育研究所

第117号（通し番号）

令和8年5月20日 発行

さわやかな季節となりました。皆様におかれましては、新しい環境にも慣れ、職務にお励みのことと存じます。教育研究所・教育支援センターでは、メンバーの変動はなく、昨年同様、様々な相談をいつでもどこでも受けられるよう、準備が整いました。

そして、教育支援センターへの通室希望、発達教育支援員への訓練希望も届きました。そして、各校へのSSWの聞き取りも始まりました。それぞれ児童生徒が抱える課題に真摯に向き合い、少しでも集団で過ごしやすくなるよう、教育研究所は努めていく所存です。

本年度も教育研究所は学校が相談しやすい、最も近い存在であるよう、補導センター職員とともに努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

<チーム研究所で頑張ります!研究所のメンバーを紹介します。>

所長	野村 泰子	教育支援センター指導員	榊山 雅子
研究員	西澤 尚輝	教育支援センター指導員	中平均
SSW	齋藤 マサ	教育支援センター指導員	国広 由香
SSW	北村 仁実	教育支援センター指導員	藤原 克彦
発達教育支援員 (言語聴覚士)	西田 香利	事務職員	長山 智花

※研究所の事務所内には少年補導センターもあり、所内会など、毎月合同で行っています。補導案件等がありましたら、ご連絡ください。

教育研究所 ☎ 22-3287

補導センター ☎ 22-1197

教育研究所は教育相談・発達
相談・校内研修を支援します。

教育研究所の事業計画

1. 教育研究活動
自律的に未来を拓く「四万十の学び手」の育成
～「情報活用能力を基盤とした教育DXの深化」と「個別最適・協働的で深い学び」の実現～
2. 学校研究支援 QUの実施、いのちの学習支援、校内研修支援
3. 教育支援センターの運営（不登校児童生徒の支援）
4. 教育相談活動
5. 研究協力校（影野小・北の川小）の取り組み支援
6. 副読本の改訂後の検証
7. 四万十教科書センターの運営（閲覧・貸出・教科書の展示会など）
8. 特別支援教育の研究（就学等健診プロジェクトへの協力）など



教育研究所 所長 野村 泰子

～先生方とともに、一歩ずつ～

私、西澤は今年度も引き続き、四万十町教育研究所の研究者として勤務することとなりました。昨年度に引き続き、町内の各学校を訪問し、先生方と一緒に「より良い教育」の在り方を考えていけることを大変うれしく思っております。

本年度、私は以下の3つのテーマを中心に活動をしてまいります。

1. デジタル学習基盤と学習データを活用した複線型授業の実践的研究

2. 学校間を繋ぐ「オンライン共同学習」の実践的研究

3. 情報活用能力育成の実践的研究

全ては、「学習者主体の授業」「主体的・対話的で深い学びの実現」を四万十町でより推進していくための教育研究です。現在、影野小学校で理科の複線型授業の実践、窪川小学校の校内研修で昨年度の取り組みの実践紹介をさせていただくなど、既にたくさんの取り組みをさせていただき大変ありがたく思っております。

研究者は、研究の推進はもちろんですが、「先生方の困りごとや授業アイデアの実現に一番寄り添える場所」でありたいと思っています。一年間、どうぞよろしく願いいたします。



期間	めあて・議題	学びのしかた	評価形態	役立つ資料リンク
4/16	◎理科の家庭の仕方をかかんにしよう - 理科の学習で大切にしたいこと - 家庭のなかで学習の環境を整えること - オンライン資料の活用がめあて ◎「天気のきまり」について分かったことをスライドにまとめるよう - アンケート、めあて - 資料集の読み方をかかんにしよう - 平日二冊の読了をかかんにしよう ◎分かったことをスライドに書いていこう	みんな		デジタル教材
4/23	◎もっと知りたいことを調べ計画を立てよう - 分かったことをスライドに書いていこう - スライドの枚数を「もっと知りたいこと（問い）」をまとめるよう - 先生からの質問にちよっせんで（質問と回答）をスライド（シート） （注）調べようを録音（先生と一緒に計画を立てよう）	みんな	この単元の変化をこんなきょうを持って実施できるようにする。	デジタル教材
4/27	◎知りたいことを調べスライドを完成させよう - 天気の系統の仕方や気象関係の気方（方位、季節の気候、雲の色、雷が落ちることの天気） ◎調べようを録音しよう - 3、4枚目に調べたことをまとめるよう	自分のペースで	この単元の変化をこんなきょうを持って実施できるようにする。	デジタル教材

教科書展示会のお知らせ

6月10日（水）～24日（水）の午前9時から午後5時まで、農村環境改善センター第1会議室にて、教科書展示会を開催いたします。小学校、中学校、高校、特別支援学校の教科書が展示されておりますので、ぜひ足をお運びください。

展示会期間外は、教科書センターにて常時教科書の閲覧・貸し出しができますので、こちらもご利用ください。（展示会中は閲覧のみです。）

<四万十町 SSW です。本年度もよろしく申し上げます!>

1. はじめに

本年度も四万十町のスクールソーシャルワーカー（以下 SSW）を担当させていただきます齋藤、北村です。どうぞよろしくお願いいたします。

日々、子供たちと向き合う中で「この子の背景には何があるんだろう?」「家庭とどう連携すればいいかな?」と、ふと立ち止まることはありませんか?

私たちは、学校の先生方と協力し、より良い支援を一緒に進めていきたいと考えております。

2. SSW って、どんな人?【私たちの合言葉は「つなぐ」】

四万十町の SSW は、文部科学省の事業として県および町の教育委員会が取り入れ、教育研究所に配置されています。最大の役割は、社会福祉の専門性を活かして児童生徒の置かれた環境に働きかけ、教育・保健・医療・福祉などの関係機関を「つなぐ」ことです。

どこにいるの? : 窪川地区と大正・十和地区に分かれ、それぞれ窪川教育研究所と大正教育研究所を拠点として各校へ派遣されます。

窓口は? : 基本的には、各学校の特別支援コーディネーターの先生を窓口とさせていただきます。

3. こんなとき、SSW を呼んでください

直接的な支援から関係機関との調整まで、幅広くサポートいたします。

- ・家庭へのアプローチ : 家庭訪問や面談を行い、児童生徒や保護者が直面している問題を理解するために直接関わります。
- ・専門機関との橋渡し : 健康福祉課、保健所、病院小児科、発達支援事業所などの関係機関と連携し、問題解決に向けたネットワークを構築・調整します。
- ・校内での作戦会議 : 情報共有のための校内支援会への参加や、学校関係者が今後どのように関わるかについての相談・協議を一緒に行います。
- ・就学前からのサポート : 小学校への円滑な接続のため、就学前の子どもや保護者への対応（個別支援会の実施等）や支援プロジェクトに参加しています。

4. よい良い支援のための「早期」の情報共有

速やかな対応につなげるため、以下の資料提供や情報共有へのご協力をお願いいたします。

- ①支援を要する児童生徒のリスト（統一様式）
- ②児童名簿（学年・学級別・担任名・支援員名）
- ③支援会計画（SSW への参加依頼がある会のみ）

5. お気軽にご連絡ください！

課題が多様化する中、私たちは学校との連携を大切に、臨機応変に対応してまいります。「こんなこと聞いてもいいのかな？」と思うようなことでも、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せください。

【お問い合わせ先】

窪川地区担当：齊藤マサ（内線 3311）

大正・十和地区担当：北村仁実（内線 4112）